

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校
指導者 松本 美枝子

1. 日 時 令和5年11月1日 第5時限 14:00~14:45
2. 場 所 第5学年1組教室
3. 学年・組 第5学年1組(38名)
4. 単 元 名 「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」
教材文:「固有種が教えてくれること」今泉 忠明(光村図書)

5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【(2)イ】	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【B 書くこと(1)エ】 ・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【C 読むこと(1)ウ】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【C 読むこと(1)オ】	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

統計資料を用いて意見文を書こう

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけの	①「書くこと」において、引	・粘り強く文章と図表などを

<p>しかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。</p>	<p>用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p> <p>③文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめようとしている。</p>	<p>結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。</p>
--	---	---

8. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、朝読書の時間には積極的に本を読み、その本の世界に没入していることも多い。しかし、国語となると苦手意識が出てきてしまうようである。いざ、授業をしてみると書けないわけではなく、これまで国語で学習してきたものを活用し、表現しようとする姿も多く見られる。一方で自信が持てないでいる児童が多くいる。そこで、自分の考えが他の誰かと違っていても本文等を根拠に書き表せているものを認め、自信を持たせるように声かけすることを心がけた。まだまだその途中過程ではあるが、継続して取り組んでいきたい。

1学期には、説明的な文章「言葉の意味がわかること」の言語活動で、本文に対する批評文を書く活動をした。レーダーチャートというツールを活用し、「事例の順序」「事例の内容」「事例の書きぶり」「筆者の主張」「おもしろさ」という観点を準備し、いずれも5点満点中何点かというレビューを付けることで批評文を書くスモールステップを踏むことができた。「書き手」としての意図を考えつつも、「読み手」としての視点も意識し取り組んだ。実際に事例の内容について、筆者の事例よりも主張を伝えるためだと自分が（友達が）考えた事例の方が適切であるといった意見や、やはり筆者の事例は主張に沿うものでよく考えられているといった意見も出た。その際も、タブレット端末や辞典を使って検索したが、よく見つけられているものも多かった。その一方、筆者の主張を見失い、本文に沿わない事例ももちろん出てきた。しかし、そこで一つひとつを否定はしなかったが、調べたことのみで終わらず、解釈精査することを継続的に且つ丁寧に指導していく必要があると感じた。

また、5年の社会科では産業や工業で様々な統計資料や写真等が用いられている。もちろん算数科でもグラフの特徴やかき方を学習する。それぞれの学習を教科だけの学習に留まらせぬよう教科横断的に積み上げることを意識した。具体的には、社会科の学習で統計資料の表し方を教科

書と資料集を比較することもあった。それぞれの本文と照らし合わせ、内容に沿って表すのに適しているのはどちらかといった際にも、資料の特徴を確認するようにした。これらの学習が国語科の本単元の学習にも繋がると考えている。

本単元の活動の中には、タブレット端末を活用したロイロノートを取り入れている。これまでの学習でも教科を絞ることなく、どの教科でもロイロノートは取り入れている。ロイロノートにある共有ノートも児童は友だちと対話しながら活用できており、考えの形成に役立っている。二学期始まってすぐの物語教材「たずねびと」では、学級全員で共有ノートを使う取り組みを初めて行なった。これまでも数名で集まって共有ノートを活用することがあっても、なかなかクラス全体では使ったことがなかった。しかし、共有ノートは数名での対話や作業には向いているが、考えの構築の際の対話の場としては不適切だと感じた。今回は手法を変更し、考えの形成に繋げたい。

(2)教材観

「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合単元である。指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気をつけたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げる。図版と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にもいかすことが指導のねらいとなる。

「固有種が教えてくれること」の特徴は、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら筆者が主張を展開していることである。一つ一つの資料の意味や効果を、本文と対応させながら、全体の文脈の中で考えたい。こうして身につけた観点を「書くこと」にいかしていく。

児童にとって、「固有種」という言葉は初めて知る言葉であろう。しかし、筆者は「固有種」が日本の豊かで多様な自然環境の素晴らしさを伝えてくれる存在であることを、様々な文章上の工夫を通して伝えようとしてくれている。こうした思いあふれる筆致は、きっと児童の関心をひきつけ、日本列島の自然や動物についての新しい見方をもたらしてくれるはずである。

「グラフや表を用いて書こう」は、グラフや表を用いて自分の考えを裏付けながら、考えを述べる文章を書く学習である。第一教材で学習した資料を用いて自分の考えに説得力を持たせる文章の書き方をいかし、自分の力で文章を書かせることに取り組ませたい。本教材では、社会生活に関わる4つの資料が提示されており、社会に対する見方や考え方を広げることができたり、友達の考えを知ることによってさらに理解を深めたりすることもできる。それら4つの資料に加え、今回は児童に身近な資料（スマートフォンの所持率、SNSが原因の犯罪被害者数の変化等）や、他教科の学習を活かせる資料（年平均気温の長期的変化や、エネルギー供給量、原油と生産量と輸入量等）も用意し、選択できるようにする。

(3)指導観

本單元では、「資料を効果的に用いた意見文を書くこと」を軸に学習を行う。そこで、単元の最初に資料を除き、文章だけにしたものを児童に提示する。資料のある場合とない場合を比較することによって、資料の大切さや効果がより明確になると思われる。さらに、本文だけのものをロイロノートで送り、「自分だったらこの段落には、こんな資料があると良いと思う」という考えを書き込んでいく。この考えは、あくまでも「折れ線グラフで、こんな変化が分かるもの」

「○○の写真があればいい」程度で構わない。筆者の書いた文章を完成されたものとして受け身な姿勢で読み取るのではなく、自分だったらと考えることで、資料のある本文を読んだ際に、こんな使い方はどうか、もっとこんな資料が必要ではないかと、資料の効果について進んで自分の考えを構築することができるのではと考えた。また資料がある本文と児童の考えとでずれが生じる箇所が出てくることも考えられる。「筆者はなぜこの段落にこの資料を持ってきたのかという疑問」を持ち、それを解決していこうと主体的に取り組むと思われる。また、「筆者が資料を入れていないところに児童の考えの書き込みが集まった場合」は、書き手と読み手の両方の立場から、資料の必要性を考えなければならないという気づきにつなげられる。

こうして、資料の有無を比較する活動を通して、進んで考えを構築したり、疑問を解決しようとしたりする主体性を高めるとともに、筆者や友だちとの対話の機会が多くなり、考えを深めることができるだろう。そして、自分で意見文を書いたり、友だちの意見文を推敲したりする際、改めて書き手と読み手の両方の見方・考え方を働かせることで、助言の言葉や受け入れ方の幅も広がると思われる。

第一次で、いきなり初見で資料のない5年生教材を扱うと文章構成の把握も難しいと考えた。そこで、練習教材として前学年で学習した「ウナギのなぞを追って」を取り上げることとする。内容は把握できているものとし、どのような資料が入るかを考えさせる。中には覚えている資料を想起したり、必死に思い出そうとする児童もいるだろう。思い出せないとなると、本文に戻り考える。また、内容が把握できているからこそ、「こんな資料があれば」という意見も出てくるだろう。そういった意見を大いに認め、知らぬ間に根付いている教科書が正解だという思い込みを払拭し、自分の考えに自信を持たせ、第二次に繋げたい。

第二次では、本文から資料を除いた「固有種が教えてくれること」を読み、資料が無ければよくわからないということを実感させる。その上で、第一次でも取り組んだように、「本文のどこにどのような資料があると良いか」を考えさせる。教科書の資料を予想することが狙いではなく、自分なりの根拠を持って考えることに重点を置く。そうすることで、資料のある本文を見たとき、筆者はなぜここに資料を挿入したのかという疑問が生まれやすく、第二次が主体的な学習の場となるだろう。その交流の方法としてタブレット端末を活用したロイロノートを用いる。本文をデジタルのノートで送り、そこに書き込み、提出し共有する。意見の交流の場としても机を寄せ集め、段落ごとに相談しやすいよう場（島）を設ける。その意図としては、必要だと感じる児童同士が集まり対話しやすいようにと考えた。もしかすると、自分が必要だと感じたところに誰も集まらない可能性もある。そうした場合、自分の考えを再度見直すきっかけになると考え

る。逆に一部の箇所に多くの児童が集まることも考えられる。そうした場合、筆者の主張でやはりこの本文の説明だけでは不十分であり、資料で補強することでより説得力が増すということにも気付けるのではないかと考える。

自分の考えた資料と筆者の資料とを比較検討する際は、単純に本文に沿っているからという理由や見栄えが良いからという理由だけで考えないように注意する。必要だと考えた資料の対応する文章が筆者と合致しているのか、合致しているのであれば両者の資料の共通点・差異点に着目し、より有効な資料はどちらかを理由を添えて考えるように指導する。また、考えた資料の対応する文章が筆者と合致しない場合、筆者の主張（考え）を支える文章としてどちらの方が有意であるかを考えた上で資料の必要性を考えさせるようにしたい。また、資料の挿入だけでなく、「この資料が無かったらどうか。」「どの資料が必須なもので、どの資料が補足的なものか。」など考えることで、児童が主体的に資料の効果を検討する姿勢につなげたいと考える。こうした経験を積み重ねることで、多面的な読み方ができるようになり、自分や友だちの意見文を推敲するときに生きてくると思われる。このように、資料に対する関心を十分に高めることで、どのような意見文を書くべきなのか、児童が自分の言葉で自分のめあてに対する学びを蓄積していけるようにしていきたい。

第三次では、意見文を作成する。第二次で学習した「図表などの効果を考えて用いることで、伝えたいことを分かりやすく示したり、説得力をもって伝えたりすることができる」ことを生かし、自分が書きたいテーマについて、自分の意見を統計資料を用いて書く。①目的に合った図表やグラフを選ぶこと。②資料と文章を対応させて書くこと。③資料から分かることと、主張を分けて書くことを児童が意識できるように指導したい。

9. 単元の指導と評価の計画（全 13 時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	2	<ul style="list-style-type: none"> 資料を用いた意見文を書くことを知り、資料の載っていない練習教材を読み、どのような資料があればいいかを考える。 考えを交流する。 		○		
2	7	<ul style="list-style-type: none"> 「固有種が教えてくれること」を読み、文章構成を捉える。 それぞれの文章のまとまりに合う資料（ツール）を個人で考える。 	○	○		

		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの文章のまとりに合う資料（ツール）をグループで考える。 ・自分が効果的だと考える資料（ツール）について全体で交流する。 ・本文で提示されている資料と、本文の対応箇所をおさえ、資料活用の効果について考える。 ・筆者の資料と自分達のもの比べ、検討する。 <p>【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをレポートにまとめる。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを基に、自分の考えをまとめている。 <p>【知・技①】 【思・判・表②③】【主】 〈ノート〉</p>
3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えにあったグラフや表を選び、順序を考えて意見文を書く。 <p>・意見文を交流する。</p>	◎	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 <p>【知・技①】 【思・判・表①】【主】 〈ノート〉</p>

10. 本時の展開(8/13時間目)

(1) 本時の目標

- ・筆者の資料と自分が考えた資料を比較検討し、自分の考えをもつことができる。

【思考・判断・表現②】

(2) 本時の評価規準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
筆者の資料と自分の考えた資料を比較検討し、自分の考えを持っている。 【思・判・表②】	自分の考えをもてるよう、第五時の必要な資料を考える活動で協同した児童と対話するよう促す。

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時のめあてをつかむ。	・前時の学習と本時の学習を繋ぎ、必要性を確認する。	
筆者の資料と比較検討し自分の考えを持とう！		
3. 筆者の資料と比較検討する。 (1) 比較し、気づいたことをノートに書く。 (2) 全体で共有する。	・比較検討するポイントを確認する。 ・筆者の主張に即して考え、本文を根拠に書くように促す。 ・必要に応じ、移動し対話してよいことを伝える。 ・ロイロノートでも紙のノートでもどちらでも構わない。 ・自分たちが考えたものも含め、この説明文で外せない資料はどれか、不要な資料はどれか、と揺さぶりをかける。	思考・判断・表現② (行動観察・ノート) 【指導に生かす評価】
4. 振り返りを書く。	・この時間で気づき学んだ友だちの意見も含め考えるよう促す。	